

地域にプラー

ちいぷら通信

地域連携活動報告書

VOL.3

2024年度地域連携プロジェクト特集号





地域連携プロジェクトとは



●本学の社会連携推進センターでは、自治体、企業、NPO等との連携や大学間連携を通して、地域の活性化および課題解決のため、学生や教職員による地域活動、ボランティア活動を支援しています。

同センタープロジェクト研究部門である社会連携共同研究所では、本学の教育研究の一層の推進を図ることを目的として、毎年度「地域連携プロジェクト」を全学的に公募し、採択したプロジェクトの助成を行っています。



2025年度 スケジュール

2024年 12月19日(木)	地域連携推進センター運営委員会で募集要領の決定
2025年 1月16日(木)	運営会議で2025年度地域連携プロジェクト公募について承認
1月23日(木)	教授会で2025年度地域連携プロジェクト公募について決定
2月3日(月)～2月28日(金)	プロジェクト募集期間
3月12日(水)	地域連携推進センター運営委員会委員に審査依頼(3/28〆切)
4月17日(木)	社会連携推進センター(※)運営委員会で採択プロジェクトを決定
5月8日(木)	運営会議で採択プロジェクトを承認
5月15日(木)	教授会で採択プロジェクトを決定
5月19日(月)	プロジェクト代表者に採択通知
6月1日(日)	プロジェクトの助成開始

※2025年度より、研究所およびセンターの名称が変更となりました。
当報告書では、年度に合わせた名称を記載しております。

(2025年3月まで) 地域連携共同研究所 / 地域連携推進センター
(2025年4月から) 社会連携共同研究所 / 社会連携推進センター

お問い合わせ

社会連携推進課

ext@jumonji-u.ac.jp





2024年度 地域連携共同研究所 地域連携プロジェクト採択一覧

(2025年4月～社会連携共同研究所)

1. 地域連携プロジェクト					
	区分	プロジェクト名	代表者名	関係するSDGs	ページ
1	継	大学マスコットキャラクターの活用とその展開ー学生にプラスの力を、地域にプラスのつながりをー	文芸文化学科 星野 祐子		1
2	継	ふるさとの緑と野火止用水を育むプロジェクト(HUGネット)	児童教育学科 星野 敦子		3
3	継	音楽による地域文化の活性化	児童教育学科 久保田 葉子		5
4	継	遊びを通した子ども・地域の居場所支援ー「しあわせ居場所ネットワーク」の活動と展開ー	人間福祉学科 矢野 景子		7
5	継	健康増進に向けたプラスごはんプロジェクトからの地域への情報発信・交信・共振	健康栄養学科 木村 靖子		9
6	継	新座市における「ナッジ」を活用した食品ロス削減のための行動変容に関するプロジェクト	食物栄養学科 芝崎 本実		11
7	継	フレイル予防のための地域在住高齢者への食支援（美味しく作りやすいメニューの提案）	食物栄養学科 岡本 節子		13
8	継	地域との連携による多様性交流サロン「みんなのひろば☆きらり」の実践	人間福祉学科 人見 優子		15
9	継	朝霞市公立保育園×十文字学園女子大学遊んで学ぶ・探求して遊ぶ「おさんぽプラス」	幼児教育学科 渡邊 孝枝		17
10	新	地域児童のヘルスリテラシー向上のための食育支援	健康栄養学科 徳野 裕子		19
11	新	新座産クラフトビール「十文字ビール」の開発とホップ粕残渣の有効活用法の検討	食品開発学科 渡辺 章夫		21
2. 地域連携共同研究所管轄のプロジェクト研究所					
1	継	生活環境研究所	児童教育学科 星野 敦子		23

※ 継・・・前年度より継続で採択したプロジェクト / 新・・・2024年度新規で採択したプロジェクト



大学マスコットキャラクターの活用とその展開－学生にプラスの力を、地域にプラスのつながりを－

1. 2024 年度の活動

	月日	イベント名	場所	内容
①	6/15	いろは SDGs の つどい	志木市立いろは遊学館	SDGs についての取り組みを発表（発表タイトル：プラスとなることやってみた！）
②	6/16	絵本ワールド	本学	キャラクターグリーティング・フォトコーナー の設置
③	8/7	夏フェス in 和光市立 中央公民館	和光市立中央公民館	ワークショップ（ロゼット・バスボム）実施、 謎解きイベント企画・実施、オリジナル缶バッ ジの作成、生成 AI を活用したぬり絵ワークシ ョップのサポート
④	8/24	ぺあも～るマーケット	柳瀬川駅前 ペあも～る商店街	水引アクセサリ作り
⑤	10/26・ 27	桐華祭	本学	メタバース体験、ロゼット作り、プラ板作り、 生成 AI を活用したぬり絵ワークショップ
⑥	11/16・ 17	SAITAMA 子育て応援フェスタ	さいたまスーパーアリーナ	キャラクターグリーティング
⑦	12/1	志木市民まつり	いろは親水公園および 志木市役所	キャラクターグリーティング
⑧	12/26	ココフレンド	新座市立野火止小学校	クラフトバンドでリース作り
⑨	2/1	チャレンジスクール	さいたま市立仲町小学校	重曹アートワークショップ
⑩	2/2	あさか産業フェア	朝霞市産業文化センター	キャラクターグリーティング
⑪	2/8	チャリティー もちつき大会	新座市野火止ふるさと広場	キャラクターグリーティング
⑫	3/22	TJUP わくわくランド	東邦音楽大学	重曹アートワークショップ
⑬	3/30	プラスちゃんの OPEN CAMPUS	本学	プラスちゃん誕生 10 周年をお祝いする記念の イベント（12 のアトラクションを設置）

①・② ちいぶら通信 VOL.1 にて報告 / ③～⑪ ちいぶら通信 VOL.2 にて報告

2. ワークショップいろいろ



プラ板



生成 AI を活用した
ぬり絵



ロゼット



クラフトバンドの
リース

3. グリーティングいろいろ



4. 2025 年 3 月のプラスちゃん活動

■TJUP わくわくランド 2024 —わくわくワークショップ—



前年度に引き続き、ボランティアセンターの学生と一緒に参加。重曹アートのワークショップを開催しました。ブースは常に満席で、用意したすべてのキット（70 人分）を体験していただきました。

■プラスちゃんの OPEN CAMPUS —10 年分のワークショップやってみるプラ♪—

プラスちゃん誕生 10 周年を記念し開催。カフェテリア全体を使って、子ども向けアトラクションやワークショップコーナーを設置しました。120 名を超える方にご参加いただきました。



10th
Anniversary

用意したアトラクション&ワークショップ

- ①シャトル発射、②ピンポン玉つり、③ブロックくずし、④カーリング、⑤ボールころがし、⑥ボール投げ、⑦お絵描き、⑧重曹アート、⑨ペーパークロマトグラフィ、⑩ロゼット作り、⑪プログラミング、⑫ダンス

2024 年度 構成員

【学内】星野祐子（文芸文化学科）・安達一寿（社会情報デザイン学科）・塚田昭一（児童教育学科）・名達英詔（幼児教育学科）・渡邊孝枝（幼児教育学科）
【学外※】龍田幸治（ソルクリエイト株式会社 代表取締役）・山崎雄一（ソルクリエイト株式会社 COO／和光市立第二中学校区地域学校協働本部 地域コーディネーター）※ ICT を活用したワークショップの指導・支援



ふるさとの緑と野火止用水を育むプロジェクト（HUG ネット）

ふるさとの緑と野火止用水を育むプロジェクト

2024 年度の主な活動

- ①ホテル放流事業（源氏 300 匹 平家 100 匹） 2024 年 4 月 7 日（日）
- 野火止用水（西分橋下の地点から水車用堰跡付近の約 50mの間） 参加のべ数 79 名
- ②ホテル観賞会 2024 年 5 月 25 日（土） 西分集会所裏 近隣の市民等 参加 約 200 名
- ③野火止用水クリーン活動（HUG ネットクリーンデー） 2024 年 12 月 7 日（土）
- 【用水クリーンチーム】 伊豆殿橋～ニトリ前、本多緑道沿い ごみの収集、分別
- 【自然環境整備チーム】 伊豆殿橋～西分橋間のアオキ、シラカシなどの小径木の除伐
- 参加人数 99 名（HUG ネット、児童、一般 4 名 県関係者、行政等）
- ④「森のプレーパーク」における「森の工作」コーナーの開催（2 回）
- 参加のべ人数 HUG ネットメンバー 58 人 コーナー来客数 約 150 名
- ⑤10 周年記念講演会「人生 100 年時代の自然との付き合い方」 2025 年 2 月 9 日（日）
- （十文字学園女子大学）HUG ネットメンバー35 名 一般 13 名 計 48 名
- ※埼玉新聞の取材があり、2025 年 2 月 25 日の新聞に掲載
- ⑥新座観光ボランティアガイド協会育成研修（5 回） 2024 年 12/14 12/21
- 2025 年 1/25 2/8 2/22（十文字学園女子大学） 参加のべ人数 75 名
- ⑦にいざプラスカレッジ（旧市民総合大学）における講義（まちづくりコース）
- 9/21 HUG ネット横山会長 10/19 川爺、畑中ホテル愛好会
- 11/16 チーム・キャロット、新座市観光ボランティアガイド協会
- ⑧10 周年記念リーフレット製作



2014 年 2 月に「ふるさとの緑と野火止用水を育む会（HUG ネット）」が創立されました。2020 年には「彩の国環境大賞 優秀賞」を受賞しました。10 周年となる 2024 年度には記念講演会が開催され、記念リーフレットの製作も行いました。

木夕儿放流会

4 月には野火止用水でホタルの幼虫の放流会が開催され、たくさんの子どもたちでにぎわいました。

7 年間ホタルの放流を試行錯誤しながら継続し、今ではホタルや餌となるカワニナが自生して、毎年 5 月下旬にはたくさんのホタルが飛翔しています。



森のプレーパーク
エ作コーナー

自然素材を利用したリースづくりは、こどもたちや親子連れに大人気！
とても素敵な作品ができました。



10周年記念講演会

講師に世界 7 大陸のピークを制覇した大山光一さん、埼玉県における川魚研究の第一人者である金澤 光さん（HUG ネット顧問）をお招きしました。プロジェクトの 10 年間の歩みを横山 勇会長よりご紹介いただきました。

ふるさとの緑と野火止用水を育む会
(HUGネット) 10周年記念講演会

入場無料 予約不要

人生100年時代の自然との付き合い方
ー山の話・川の話ー

日時 2025/2/9 (日) 10時から12時
場所 十文字学園女子大学 8411教室

内容

- ・2015年3月に設立された「HUGネット」は、新座市において自然環境保全活動を中心に、地域に根差した活動を展開している地域ネットワークです。
- ・10周年を記念してこれまでの歩みを振り返り、人生における自然との関わり方を再考したいと思います。

講演



講師 田山 光一 先生
(日本山岳会 埼玉支部長)
会社員として仕事をしながら、
世界7大陸の最高峰を制覇
エベレストには2回登頂



講師 金澤 光先生
(埼玉県魚類研究会 代表)
埼玉における淡水魚類研究の
第一人者。特に世界で唯一のム
サントミヨの研究者として活躍
されている。

主催：ふるさとの緑と野火止用水を育む会
・十文字学園女子大学環境学研究所

[illegible]

音楽による地域文化の活性化

“音楽を一生の友だちに”～地域連携による音楽教育～

何を？

- ・本学学生が地域連携による音楽教育や、生涯学習としての音楽活動のあり方を実践的に学ぶ。
- ・吹奏楽の楽器と指導法について学ぶ。部活動指導の地域移行について指導者から話を聞く。
- ・小学生～大学生、社会人、プロの音楽家、大学教職員、教育委員会、公共ホール職員の協働によりコンサートを開催し、地域の方にさまざまな編成の音楽を聴いていただく。音楽の種をたくさん蒔く。

どこで？

- ・ふるさと新座館ホール(2024年8月4日 コンサート開催)
- ・和光市民文化センター サンアゼリア小ホール(2025年2月9日 コンサート開催)
- ・十文字学園女子大学(コンサートの企画制作、楽器実技のワークショップ、NPO Castor 代表による公開講座、児童教育学科インスタチーム主催プレゼンテーションへの参加 他)

誰が？
(敬称略)

- ・新座市教育委員会、新座市、新座市文化協会 ※2024年8月公演
- ・公益財団法人和光市文化振興公社、和光市、和光市教育委員会 ※2025年2月公演
- ・特定非営利活動法人文化部活動の地域移行支援ネットワーク(NPO Castor)
吉岡理菜(マリンバ・打楽器・編曲)、飯塚健太(クラリネット)
- ・さくら音楽団(小学生から社会人まで音楽愛好家が所属する市民楽団)
- ・十文字学園女子大学「表現活動(基礎)・(応用)」履修者(児童教育学科・心理学科の学生)
- ・十文字学園女子大学 久保田ゼミ(コンサートの企画制作・出演)、川瀬ゼミ(チラシデザイン)
- ・公演スタッフとして参加した学生たち(児童教育学科)・本学吹奏楽部部長(楽器貸出し)
- ・ふるさと新座館及びサンアゼリアの舞台技師の皆さん、ピアノ調律師、公演チラシのデザイナー
- ・楽器の奏法を指導してくれたボランティアの皆さん(山田茜、青木正人、廣坂健二)
- ・大学教職員(児童教育学科 久保田葉子・狩野浩二・山崎萌々子・細谷忠司、学生支援課 久保裕子 社会情報デザイン学科 棚谷祐一・川瀬基寛、広報課 原一彰、地域連携推進課のみなさん)
- 他にも、多くの方にご協力いただきました！

【コンサートチラシと公演記録(大学ホームページに掲載された写真と動画)】



2024.8.4
ふるさと新座館公演
動画はこちら→



2025.2.9
和光市民文化センター
サンアゼリア
動画はこちら→



【楽器を知るためのワークショップ】

木管楽器アルトサックス



吹奏楽部&調律師さんからトランペットを お借りして金管アンサンブルに挑戦



↑大学職員のご家族が熱心に指導

リードやマウスピースはどのように選べばいいの？
それぞれの楽器の持ち方、メンテナンスは？
息の使い方、姿勢は？自分に合った練習方法は？
複数の楽器で合わせるためには？
編成やメンバーに合った楽曲のアレンジとは？
良い音って何だろう。他にはどんな可能性があるのだろう。

ヘンデル作曲「勝利をたたえる歌」



【部活動指導を地域に移行する利点や課題について学ぶ】



【コンサートの様子】表現活動（応用）クラスによる 総合表現「かたくりの花」の発表



独唱 青葉音乃花さん(3年生)



フルート 栗原希和さん(3年生)



会場の皆様と一緒に「ラデツキー行進曲」



「地域連携による音楽教育」を年間研究テーマに選んだ本学の学生と教職員は、公共ホールの協働主催者・教育委員会・アーティスト・吹奏楽指導者・音楽愛好家との交流を通して、地域の方たちと連携することで音楽教育の可能性が広がることを学びました。学生一人ひとりが、子どもたちが音楽に触れる機会を創造することができるように、これからも「音」「音楽」「アンサンブル」「音楽教育」の世界を探究します。(児童教育学科 久保田葉子)

遊びを通した子ども・地域の居場所支援ー「しあわせ居場所ネットワーク」の活動と展開ー

しあわせ居場所ネットワーク 「ハピネス」活動報告

2024 年度

2024 年度（令和 6 年度）活動成果

（１）これまでの３つの柱の継続

- ・栄 4 丁目商店街たまりば（フードパントリー・親子の居場所）
- ・十文字の森（プレーパーク）
- ・野火止集会所（遊びのアウトリーチ【あそびば】）

（２）子どもの遊び保障のさらなる発展

- ・遊びのアウトリーチ活動展開
- ・公民館・子育て支援の場での遊び提供とコミュニティづくり
- ・事前の年度計画外の企画運営機会獲得

（３）学生を通した地域活動の成果

- ・地域間の情報発展
- ・アウトリーチ依頼増加
- ・新たな地域での活動への発展



ハピネス

活動概要：

人間福祉学科の学生が企画・運営を行っているボランティア団体です。地域や他機関との交流を行いながら学生が企画運営をしています。

通称「ハピネス」と呼ばれ

「ハ（happy 幸せ）、
ピ（place：居場所）、
ネ（network：つながり）、
ス（三単現の S：みんなで創る）」
という理念のもとに運営しています。

2025 年度からは全学に募集を開放
します。

○2024 年度（令和 6 年度）はこれまでの実績をもとに、3 つの柱である（１）栄 4 丁目商店街たまりばを利用したフードパントリーおよび親子の居場所づくり（２）十文字の森を利用したプレーパーク（３）野火止集会所による遊びのアウトリーチ【あそびば】を継続して活動しました。

○子どもの遊び保障をさらに発展する活動として遊びのアウトリーチ活動を展開し、公民館や子育て支援の場における遊びの提供とコミュニティづくりへと発展させ、事前の年度計画にはない企画運営の機会を得ることができました。

○学生を通した地域活動は、地域間の情報へと発展し、アウトリーチの依頼がくるようになり、新たな地域での活動への発展につながりました。具体的には、2024 年度はボディウォーク東京 for all@池袋にて、ワークショップ（ソルトマラカス、スライムづくり）やバルーンアートの活動「志木市児童センター」でのバルーンアートワークショップや川越市ファミリーサポートセンターの交流会での読み聞かせやバルーンアートコーナーなど、を展開しました。

○2023 年度に実施した十文字の森のプレーパーク子どもの権利イラストパネル展にいらして方からの紹介にて、朝霞プレーパーク、清瀬（生活クラブ）、NPO 法人志木子育てネットワークひろがる輪、と新座・朝霞エリアでの「子どもの権利イラストパネル展」の開催へと発展しています。

活動の実績

バディウォーク東京 for all@池袋（スライム、ソルトマラカス、バルーンアート）

十文字の森プレーパーク

野火止 4 丁目集会所 あそびば開催

新座栄 4 丁目たまりばフードパントリー（子どもコーナーの運営）

志木市児童センター（バルーンアートワークショップ）

川越市ファミリーサポートセンター交流会（読み聞かせ、バルーンアート）



栄 4 丁目商店街 たまりば



志木市児童センター こどもマルシェ



十文字の森プレーパーク



十文字の森プレーパーク



川越市ファミリーサポートセンター 交流会



野火止 4 丁目公民館 あそびば

子どもの権利イラストパネル展の展開

（十文字の森⇒

朝霞プレーパーク、清瀬、志木など、新座・朝霞エリアへ）



Instagram を学生広報が運営中!!

活動報告や活動予告を投稿しています。

是非フォローとチェックをお願いいたします。

DM でのメンバー募集もしています。

気になった方、質問がある方、ご連絡をお待ちしております!





健康増進に向けたプラスごはんプロジェクトからの地域への情報発信・交信・共振

プラスごはんプロジェクトは、2020年度より健康づくりのための食事に焦点をあて活動している。目的は、本学学生食堂（以下、学食）のメニューづくりをとおして、学生および教職員等の学食利用者の健康増進に貢献し、さらには本学より学生主体で地域への食の情報発信を行い、地域住民の健康増進に寄与することである。

2024年度のおもな活動について報告する。

その1

学食メニューコンテスト

“プラスちゃん10歳を記念して”

学生や教職員が学食の食事に対する意識を高めるために学食メニューコンテスト第6弾を実施した。

今回は“プラスちゃん10歳を記念してのバースデーメニュー”として、「10種類の食材を使ったメニュー」、「新座の特産物ほうれん草、人参、里芋を使ったメニュー」、「白をイメージしたホワイトスイーツ」の3つのテーマで募集し、21メニューの応募があった。学食運営のグリーンハウス株式会社様とプロジェクト教員の審査により、各テーマより1メニューずつを選び、1月23、24日に提供した。

プラスちゃんをテーマにしたことで学生の関心は高く、連日ともほぼ完売となった。



鱈福井



プラスちゃんゼリー



サーモンとほうれん草の
クリーム煮

その2

学食を活用した学生と近隣地域のシニア層のかたとの関わり

“シニア健康教室とのコラボ企画”

2022年度に学食メニューコンテストで応募のあった定食メニューをもとに、「おいしく食べよう健康メニュー」という料理レシピ集を作成した。2023年度より健幸づくり協働研究所主催の「シニア健康教室」参加者の近隣地域の中・高齢者にこのレシピ集を配付し、ミニ講義を行い、料理レシピ集掲載の定食メニューをシニア健康教室後に昼食として提供、今年度も12月、2月、3月のシニア健康教室後に昼食に定食メニューを提供した。参加者と学生が健康や食と運動に関する情報の共有・共振することができた。



料理レシピ集



3月昼食メニュー
カオマンガイ定食



菊芋ごはん



さらに、1月のシニア健康教室では、ミニ講義の話題となった菊芋の料理を普及するために、学生が菊芋を調理し、参加者に試食してもらった。学生が調理したことで参加者の料理への関心は高くなり、食材に関する知識を深め、定着させる効果を上げることができた。

その3 清瀬市旭が丘団地にて 健康に関するイベントに学生が参加！

2024年8月 23 日に開催された清瀬市の旭が丘団地に住む高齢者のかたが集う「旭が丘みんなのサロン」において、健康栄養学科の学生が、団地内の高齢者を対象に「食と栄養」、「健康と運動」をテーマに、学生が作成した料理レシピ集をもとに身近な食材を活用した時短レシピの紹介や、家でも簡単にできるストレッチについて実践を交えながらミニ講義を行った。

講義の前半は「食と栄養」をテーマとして栄養バランスのとれた食生活について説明し、後半は「健康と運動」をテーマに、学生がかけ声や動きの見本を示しながら、効果的なストレッチを参加者に実践してもらった。



手作りの時短レシピ集



11月3日の「秋のフェスティバル」では、“手軽に健康維持・増進にプラス!”をテーマに、学生がカルシウムの重要性をまとめたリーフレットを配布しつつ、幅広い年代層の嗜好にあったスキムミルクや粉チーズを利用したカルシウム強化のクッキーを作製し、試食してもらった。

また、3月15日には当団地自治会が主催する「喫茶あさひ」に参加し、健康に配慮したスイーツを販売、提供した。対象者の嗜好や健康状態を考慮し、学生自身がいちからレシピを考案した。また、スイーツに含まれる栄養素についてまとめたリーフレットも配布し、大変好評であった。



その4 野火止公民館にて 米粉 de おかしづくり体験 を実施！



2024年12月14日に新座市野火止公民館にて、健康栄養学科の3年生が「米粉 de おかしづくり体験」の講師を務めた。対象は地域にお住まいの成人の方で、19名の方にご参加いただいた。食物アレルギーと食品ロスを考えた、体にも地球にも優しい米粉を使ったビスキュイ(焼き菓子)づくりと食物アレルギーのミニ講座を行った。

さつまいも、かぼちゃ、乳不使用のチョコレートなどを使ったビスキュイを参加者の皆さんと一緒に心を込めて丸めて焼いた。

実施後のアンケートでは全員の方から「大変満足」とご回答いただくことができた。米粉のクッキーやパン、お料理も教えてほしい、というご要望もいただき、今後の活動の励みになった。



新座市における「ナッジ」を活用した食品ロス削減のための行動変容に関するプロジェクト

新座市における「ナッジ」を活用した食品ロス削減のための行動変容に関するプロジェクト 生協カフェテリア「秋の食べ切りパフェ祭り」の実施報告

【目的】

食品ロス削減月間(10月:環境省)にあわせて、大学生を対象に「食べ切り」をテーマとした啓発活動を展開。学生が主体となり、女子大学生に人気の「パフェ」を使ったイベントを通して、食品ロスの社会的背景を伝えつつ、日常的な食行動に対する気づきを促すことを目的とした。

参加者には食べ切り行動を促すきっかけ作りや広報活動を実施した。さらに、アンケート調査によるナッジ効果による行動変容の可能性についても検討した。

【イベント実施期間】

2024年10月16日～11月1日(食品ロス削減月間)の内8日間

【主催】

食物栄養学科有志学生(4年生12名) × 生協カフェテリア

(担当教員: 鴨下澄子、林綾子、芝崎本実)

◆イベント概要◆

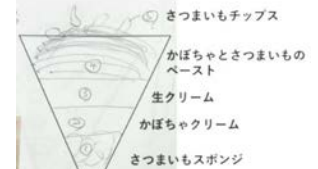
【提供パフェと販売実績(各30食限定)】

生協コラボプロジェクトとし、生協職員と共にプロジェクトメンバーが、パフェの企画や試作、ポスター作りなどの打ち合わせを行い、イベントの運営を行った。パフェグラスやカトラリーの選定、パフェの構成などを考え、販売予定数や作業工程などを考慮し、環境にやさしく、女子大生が好むようなパフェを考え、商品化につなげた。

一食300円(税抜き)とし、30食/日、10月の食品ロス削減月間限定メニューとして販売した。



学生が考案したメニュー(例)



季節の野菜パフェ



パフェ名	季節の野菜パフェ	秋のフルーツパフェ	人参あんこの和風パフェ
提供日数	3日間	2日間	3日間
販売数 (合計:241食)	90食	61食	90食
主な特徴	かぼちゃペーストや 大学芋を使用	季節の果物(ぶどう)と プレーンヨーグルトを使用	埼玉県産野菜(にんじん、さつまいも、ゆず)を 使用した本学オリジナル ベジフルあんこを使用
パフェの写真			

【食べ切り行動を促すためのきっかけ作りや広報活動等】

- ・3種類のパフェを食べるとパフェ食べ切りカードにスタンプを押す。
- ・「食べ切ることができた」→ オリジナルファイルや金券プレゼント！
※2種で金券1枚、3種で金券2枚+オリジナルファイル。
- ・フードライブプラス 2024 の活動内容やボランティア活動についてインスタを開設し、情報発信した。また、参加者にはステッカーを配布した。
- ・食卓には啓発 POP を掲示。



卓上ポスター



フードライブ 2024 インスタステッカー



イベント告知ポスター



学生が考案した A4 サイズファイル
最新の食品ロス削減のデーターを記載した。

◆アンケート調査結果◆

- ・アンケート回収率は 35.6% (配布数 90 名、回答者 32 名)
- ・回答者の約 87% が「イベントをきっかけに食べ残しを意識するようになった」と回答した。
- ・最も評価が高いパフェは「人参あんこの和風パフェ」(食数・再販希望ともに上位)であった。
- ・購入理由は「おいしそうだった」が最多(21 名)。一方で「食品ロス削減に関心があった」も複数名あった。
- ・「食品ロス」という言葉や意味を理解している学生が多かった。
- ・家庭でも『残さず食べる』や『必要な量だけ買う』などの取り組みをしている学生が多かった。
- ・イベントに対する認知率は 74% で、意識啓発効果が一定数みられたと考えられた。

【今後の展望と課題】

- ・食材の余剰や再活用方法を検討する。
- ・カフェテリア利用者へのナッジ効果検証体制を構築する。
- ・告知ポスターに価格・食材表示の強化を行う。

【謝辞】

イベント実施にあたり、ご協力いただいた生協職員の皆様に深く感謝申し上げます。

生協カフェテリアでの販売の様子



フレイル予防のための地域在住高齢者への食支援（美味しく作りやすいメニューの提案）

地域在住高齢者フレイル予防の活動

活動内容

新座市では、地域在住高齢者が野火止、東一丁目、東3丁目等の集会所に集まり、週1回自主的体操教室を開催してフレイル予防の活動を行っています。

岡本ゼミでは、自主的体操教室に通う地域在住高齢者の方々を対象に、年2回、身体計測、身体機能調査、食生活に関するアンケートを行い、**美味しく作りやすいメニュー**を小冊子にまとめて、低栄養等のフレイル予防の取り組みを行っています。

身体計測、身体機能調査の様子

5m歩行速度



オーラルディアドコネシス



骨密度測定



下腿周囲長の測定



5回立ち上がり速度



岡本ゼミ調査員

美味しく作りやすいメニューの提案

高齢者に起こりがちな 4 つの疾病・機能低下の予防レシピを考案しました。

- | | |
|-----------|-----|
| ① 低栄養 | 5 品 |
| ② 咀嚼力低下予防 | 5 品 |
| ③ 骨粗鬆症予防 | 5 品 |
| ④ 減塩食 | 5 品 |



低栄養予防

鮭の竜田焼きのせうどん



咀嚼力低下予防

れんこんと白滝のきんぴら



骨粗鬆症予防

乳和食（豚汁）



減塩食

トマトとブロッコリーのマリネ



レシピ集



成果

3 月に東一丁目、東 3 丁目集会所にて、身体計測、身体機能調査の後、今回作成した「高齢者向けレシピ集」を配布致しました。地域在住高齢者の方々には、フレイル予防は日頃の運動習慣とともに栄養は重要と大変喜ばれました。また、学生たちは、自分たちが作成した料理レシピを多くの地域在住高齢者の方々に活用していただきたく、新たなレシピを考案したいと希望に燃えていました。

地域との連携による多様性交流サロン「みんなのひろば☆きらり」の実践

多様性交流サロン みんなのひろば☆きらり

みんなのひろば☆きらりは、だれでもが集う居場所づくりを目的に、毎月1回第4土曜日を中心に新座市あたご地区のあたごひろばで活動しています。2024年度は、学生運営委員（活動）による「集い」のきっかけとなる活動の実施、学生運営委員（広報）によるポスター&チラシ作成、☆きらりを継続的に楽しむ音楽活動を行いました。

4月



4月「こどもの日」：
ちぎり絵で端午の節句、昔おもちゃあそび
5月「梅雨を楽しもう」：
スタンドグラスづくり、ジェスチャーゲーム
6月「七夕」：飾り作りと飾りつけ
地域の方の昔話や、地域の方が朝一でとってきた竹を利用した七夕を楽しみました。

5月

7月

7月
「夏祭り」：射的、くじ
8月
「商店会スタンプラリー」：
スタンプラリー
地域のマップづくり
9月
「おかし遊び：色々な玉」：
お祭りやスタンプラリーでは、
ひろばを出て地域の方にご協力
いただきながら、交流を楽しみ
ました。

8月



6月

9月

10月



10月「☆きらり in 桐華祭」
クルミボタンづくり
活動報告
11月「芸術の秋」：
絵しりとり、紙粘土
12月「クリスマス会」：ツ
リー飾り、ビンゴ大会
たくさんの参加者と楽しむ
ことができました。

11月

12月

1月



1月「新年」：
ジャンボ福笑い、風船バレー、活動報告
2月「バレンタイン」：
雛飾り、バレンタインピニャータ、風船バレー
3月「☆きらり」オリジナル音楽会：
「きらり☆ふわり」演奏・合奏、
楽しいエイプリルフル対策講座
新しい活動が広がり、1年を通して楽しめました。

2月

3月

みんなのひろば☆きらり 問い合わせ hitomi@jumonji-u.ac.jp (人間福祉学科 山口・人見)



学生運営委員（広報）（音楽）

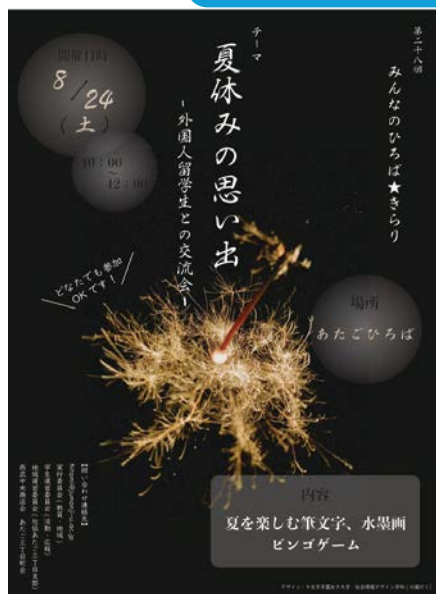
地域みな様に活動のお知らせをするポスターや回覧板用チラシを
社会情報デザイン学科の学生運営委員（広報）が作成しています。

川瀬ゼミ、棚谷ゼミの学内活動では、地域の声を形にしています。



活動方法も多様性、学生運営委員は、間接的に地域のみな様と交流しています。

ポスター展最優秀賞



作品の展示をしています。地域みなさまに
気に入った作品を投票で選んでいただきま
した。地域の方は、毎月の作品を心待ちにし
てくださっています。（指導・川瀬基寛教授）

きらり☆ふわり合奏



きらり☆ふわり
是非、ご視聴ください
作詞・作曲 棚谷祐一教授



あさごん音頭誕生

☆きらりソング第一弾は、「きらり☆ふわり」でし
た。「涙がでました」「地区の様子がよく表れている」
「温かい優しい歌ですね」と好評でした。

第二弾は地域の声とゆるキャラあさごんのイメ
ージから「あさごん音頭」が誕生しました。「名曲だ
ね!」という参加者の声に鳥肌が立ちました!

2025年度は「あさごん音頭」で盛り上げます。

あさごん音頭
是非ご視聴ください
作詞・作曲 棚谷祐一教授



毎月のポスター

今月も素敵なポスターね!という声を聞くと
嬉しくなります。作成している学生たちに地域の
声は直接届きませんが、ポスターやチラシをみて
遊びにきてくださることで、間接的なつながりを
大切にいただいています。



朝霞市公立保育園×十文字学園女子大学 遊んで学ぶ・探求して遊ぶ「おさんぽプラス」

1. 「おさんぽ プラス」とは

十文字学園女子大学と朝霞市は、地域連携協定に基づいて共同事業「おさんぽ プラス」を2023年度より開始しました。保育園での散歩に大学の専門性を“プラス”し、地域資源や大学キャンパスを活用した遊びと学びの場を創出することを目的としています。本事業では、教員・学生・地域住民など多様な主体が連携し、子どもの興味・関心を見取り、引き出し、育む活動を展開しています。そのため散歩にとどまらず、保育の質向上や保育者養成、小学校との接続といった多角的な教育的な価値を備えています。

2. 3つの「プラス」視点と2024年度の目標

「おさんぽ プラス」は以下の3つの視点で構成されています。

①おさんぽにプラス

それぞれの子どもたちの知りたい!遊びたい!に応えます。

子どもたちの姿や興味関心について、保育園の先生方と本学教員が語り合います。

そして、本学の専門性と朝霞の地域資源や本学のキャンパスを生かしたおさんぽの内容を考えます。

②毎日の保育にプラス

本学教員が見つめた子どもの姿を先生方へフィードバックし、子どもたちの遊び・学びを深める提案等も行います。

そして、次のおさんぽの内容にも生かしていきます。

③地域と学生にプラス

将来、近隣地域で保育者を目指す学生に実践的な学びの場を提供します。

2024年度は、2023年度に引き続き朝霞市本町保育園と共に「おさんぽ プラス」に取り組み、朝霞市立朝霞第六小学校と連携して、年長児の育ちを小学校へと繋げていく「架け橋」の一つとして、「おさんぽ プラス」を活用することを目的としました。

3. 「おさんぽ プラス」から読み解いてきた「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、「保育所保育において育みたい資質・能力が育まれている子どもの具体的な姿であり、特に卒園を迎える年度の後半に見られるようになる姿」※です。この具体的な内容は、下記の10の姿として保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に共通の内容として示されています。

「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」

「自然との関わり・生命尊重」「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」

2023年度の「おさんぽ プラス」では、遊びの中で次のような子どもの姿を保育者と大学教員が共に複数回映像を見ることで子どもたちの興味・関心を捉え、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を読み解いてきました。動画の撮影は幼児教育学科の学生が担い、映像には学生自身が面白いと感じた遊びが、終わるまで十分に記録されていました。

①言葉遊びと森での遊びの融合

本学の「森」で「へ」と「く」の形をした枝を拾って、「先生は日本語の先生だから、「へ」と「く」の枝をあげるね!」と、年長児が興味を抱く「だじゃれ」についてお話してくれた文芸文化学科星野祐子先生に枝を渡す姿がありました。言葉や文字への関心の芽は遊びの中にあり、自分で文字を見つけた喜びは、小学校での学びへ向かう力にもなるでしょう。

②丸太運びを通じた協同性の発揮

丸太を運びたいと二人の年長児が試行錯誤する中で、あえて反対斜面に丸太を転がして向きを変えろという友達の考えに気づき、二人で動きを合わせる姿がありました。また、ドラム缶に切り株を入れて運ぶという友人の発言に反応し、4人で協力し動く姿もありました。これらの姿からは、「協同性」「思考力の芽生え」「言葉による伝え合い」を読み取ることができ、やってみたいと思うことを探求できる遊びの中で十分に発揮されていました。



この「おさんぽ プラス」は毎日の保育にも変化をもたらし、保育者と本学教員が複数回子どもの姿を語り合ったことは、要録にも生かされていきました。自ずと子どもたちの小学校以降の学びの接続について語り合いが生じ、より良い「おさんぽ プラス」のあり方を模索することに繋がりました。

4. 遊びから見取った子どもの興味関心とその深まりを小学校以降の学びへつなぐ

上記のようなプロセスを経て、2023 年度末に「おさんぽ プラス」について朝霞市立朝霞第六小学校と共有したことから、2024 年度は保育者と小学校教諭、本学教員が共に子どもたちを見つめ、遊びと学びについて検討する機会を複数回持つことができました。

2024 年	
4 月 18 日	朝霞市保育者研修会「おさんぽ プラス」活動報告
5 月 31 日	朝霞市立第六小学校教諭を対象とした「おさんぽ プラス」の報告
6 月 5 日	朝霞市立第六小学校主催研修会 参加、交流
6 月 28 日	東京都文京区立お茶の水女子大学こども園視察
7 月 26 日・30 日	朝霞市立第六小学校教諭の保育所での観察と交流
8 月 26 日・27 日	
10 月 23 日	朝霞市立第六小学校（2 年生）の研究授業、研究会への参加
2025 年	
1 月 8 日	十文字学園女子大学 幼児教育学科「保育・教職実践演習」における保幼小連携に関する 塚田昭一先生の特別講義に朝霞市立公立保育園5 園の園長が参加
1 月 16 日	朝霞市立第六小学校（1 年生）の研究授業、研究会への参加
2 月 18 日～20 日	朝霞市本町保育園「おみせやさんごっこ」に2 年生3 クラスが参加
3 月 12 日	朝霞市本町保育園「おさんぽ プラス」実施 於：十文字学園女子大学



5. 2024 年度「おさんぽ プラス」を通して見つめた朝霞市立本町保育園の年長児の育ちと「穴」への興味

2024 年度は1 年を通して、朝霞市本町保育園の子どもたちの育ちを見つめました。8 月下旬に子どもたちの遊びを観察した時は、一つのことに集中して取り組むよりも、遊びが次から次へと変わっていく印象を受けました。保育者も子どもの興味関心の深め方や発想力に課題を感じており、試行錯誤する日々の中で保育記録を見つめ直した保育者が、子どもたちの間で「穴」への興味が様々な展開していたことに気がつきました。トイレトペーパーの芯を双眼鏡に見立てた時の穴、砂場や築山に掘った穴、モグラの掘った穴…一つ一つの点であった遊びが、「穴」という興味の気づきによってつながり、一本の線となっていきました。さらに、お味噌作りを通して抱いた菌やウイルスへの興味からか、「穴」をテーマにおみせやさんごっこを検討するときに、人体の穴に対するイメージが広がりました。そこで、2 月の「おみせやさんごっこ」では、人体の穴をテーマに耳垢とりや耳飾り、鼻毛抜きや鼻くそ取りゲームなど様々な遊びを考案し、在園児や招待した 2 年生にルールを説明し、共に遊ぶ様子がみられました。このような育ちを経て、3 月に大学の森で「おさんぽ プラス」を実施した時には、子どもたちはそれぞれがやってみたい遊びを見つけてじっくりと取り組み、自分たちで集合の声かけをしてやお弁当の準備も行い、自律性と主体性を発揮していました。切り株での餅つきごっこや木登り、カブトムシの幼虫探しなど、探求心を持続しながら自然と深く関わる時間となりました。年長児が広げた「穴」への興味は、年中児以下の子どもたちにも伝播し、保育園には様々な年齢の子どもたちが掘った穴がボコボコと空いていました。



6. まとめと次年度に向けて 一園一校から始まる保幼小連携を！

朝霞市立朝霞第六小学校の 2 年生がおみせやさんごっこに来たとき、築山の穴を掘り始めた 2 年生の男子がいました。そこへ年長児がやってきて、一緒に穴を掘り始める姿が見られました。実際の子どもの姿を目の前にして、学びの連続性を検討できることこそ、現場の小学校教諭、保育者の実感を伴った保幼小連携になると感じました。「一園一校からはじめよう！」というスローガンのもと、現場の教員・保育者の実感を伴った、子どもの姿が見える保幼小連携に「おさんぽ プラス」を通して取り組んでいきたいと考えています。

※1 厚生労働省（編）（2018）保育所保育指針解説。フレーベル館
本通信は、『2024 年度 十文字学園女子大学地域連携共同研究所 地域連携推進プロジェクト報告書 朝霞市公立保育園×十文字学園女子大学 遊んで学ぶ・探究して遊ぶ「おさんぽ プラス」』を基に作成しています。
プロジェクトメンバー：十文字学園女子大学幼児教育学科 渡邊 孝枝、名達 英詔、横井 紘子、朝霞市本町保育園園長 伊地知 くみ子

学校教育におけるヘルスリテラシー向上に関する教育研究 と児童の身体（心と体）の安定性の向上

学校教育におけるヘルスリテラシー向上に関する教育研究と、児童の身体的・心理的な安定性を高めることを目的として実施した活動についてご報告いたします。児童の健康意識を高めることを目指し、教員・児童・保護者と連携して行った各プログラムの内容と成果、さらに今後の改善策について記載します。

▶主な活動目的・目標

<目的>

本活動の目的は、各教科の授業、給食、特別活動、学級活動など学校教育全体を通じて、児童のヘルスリテラシーを向上させ、心と体の安定性を高めることです。

<目標>

- ① 教員、児童、保護者のヘルスリテラシーの状況と、児童の社会的経済的要因、心理的要因、健康的要因との関係を明らかにすること
 - 児童には生活習慣や食生活に関するアンケートを実施し、日常生活における健康意識の傾向を把握しました。
 - 保護者にもアンケートをお願いし、家庭環境が児童の健康行動に与える影響について分析しました。
 - 教員へのヒアリングを通じて、授業や特別活動が児童のヘルスリテラシー向上にどのように寄与しているかを整理しました。
 - 調査の結果、家庭の社会経済的状況や心理的な要因が児童の健康習慣と密接に関係していることが確認できました。
- ② 肥満傾向の児童の現状を把握し、改善策を見つけ、行動変容につながる提案を行うこと
 - 児童の BMI を測定し、肥満傾向にある児童を把握しました。
 - 対象児童に対して、運動や食生活の改善を促す指導を行いました。
 - 食事面では、栄養バランスに配慮したメニューの提案や、家庭でも実践できる工夫を紹介しました。
 - 運動面では、音楽に合わせたダンスやリズムトレーニングなど、楽しみながら運動できるプログラムを提供しました。
 - 活動のふりかえりを行うことで、児童の自己管理意識の向上も確認できました。
- ③ 教育的施策の成果を把握するための成果指標の設定を行うこと
 - ヘルスリテラシーに関する知識テストを実施し、活動前後の比較により学習成果を測定しました。
 - 体重や BMI の変化を記録し、健康状態の改善傾向を確認しました。
 - アンケートを通じて、児童の行動変容や意識の変化を把握し、施策の有効性を評価いたしました。

<活動報告>

1. わかりやすい教材を使うこと
図や動画を使って、児童や保護者がもっと楽しく学べるようにします。
 2. 家庭との連携を強めること
保護者向けの説明会や、家でできる工夫を紹介し、一緒に取り組めるようにします。
 3. 一人ひとりに合わせた対応をすること
必要な児童には個別に目標を立てて、進み具合を見ながらサポートしていきます。
 4. 活動の効果をしっかり見ること
今後も成果をはかる方法を工夫し、活動がどのくらい効果があるかを見ていきます。
- これからも、子どもたちの心と体の健康のために、このような活動を続けていきたいと考えています。

▶ 2024 年度具体的活動報告

■ 5・6 年生の給食調査

学生たちと共に小学校へ訪問して給食中の様子を見学し、実際に盛り付けられた給食を計量し、残食やおかわりした人数などを調査しました。また、児童のみなさんに朝食についての聞き取りを行い、給食との関連性を評価・考察しました。

■ 中休みダンス教室

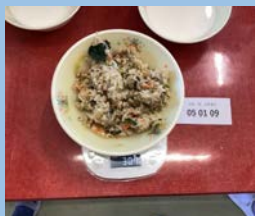
健康栄養学科 飯田路佳教授ご指導のもとで、学生が作成したダンス動画を使用し、「中休みダンス教室」を2学期に開催しました！また、秋の運動会ではダンスの練習成果を披露する時間もいただきました。

■ ココフレンドでの食育教室・運動教室

ココフレンド（放課後子ども教室）では、学生が考案した食に関する遊びやエクササイズを、児童のみなさんと一緒に行いました！

「楽しかった！」「またやりたい！」という声を聞くこともでき、学生も貴重な経験となりまた励みにもなりました。

給食調査



中休みダンス教室



ココフレンド



新座産クラフトビール「十文字ビール」の開発とホップ粕残渣の有効活用法の検討

～食品開発学科と社会情報デザイン学科の学生たちによる 新座産クラフトビール『BELLUME ベルューメ』の開発～

背景と目的

- ・若者のビール離れでビール類市場の縮小が続く中、クラフトビールの売上は堅調に伸びている
- ・産学官の連携により、新座市を活性化させたい
- ・学科それぞれの専門性を活かして良い物を造りたい

活動日程

- ・6月25日 キックオフミーティング（全員）
- ・9月3日 ビール仕込み（渡辺ゼミ）
- ・7月10日 企画について打ち合わせ（全員）
- ・8月中 商品名の検討（松本ゼミ）
- ・8月中 ラベルの検討（川瀬ゼミ）
- ・10月2, 3日 ビール充填・ラベル貼り
- ・10月中旬 お披露目会の開催（全員）



活動メンバー

- ・十文字学園女子大学 食品開発学科 渡辺ゼミ（企画・製造）
- ・十文字学園女子大学 社会情報デザイン学科 松本ゼミ（企画・マーケティング・ネーミング）
- ・十文字学園女子大学 社会情報デザイン学科 川瀬ゼミ（企画・ラベルデザイン）
- ・十文字学園女子大学 募集課 和井田・藤井，広報課 原・近藤・宮内，研究支援課 松本，就職支援課 町田（企画・広報）
- ・(有)フジタケ（販売）佐藤さん（企画・販売）
- ・新座市商工会 梶原様・柴田様（企画・広報）

活動成果

食品開発学科 渡辺ゼミ、社会情報デザイン学科 川瀬ゼミ、松本ゼミでは、新座クラフト様にご協力をいただき、十文字学園女子大学×新座クラフト コラボ企画としてオリジナルクラフトビールを企画・製造しました。

近年若者のビール離れなどでビール類市場の縮小が続く中、クラフトビールは堅調に伸びています。そこで、私たちは、女性や若者、ビールが苦手な人でも飲みやすいオリジナルクラフトビールの開発を目指しました。

企画・製造は食品開発学科の渡辺ゼミが担当し、商品名は社会情報デザイン学科の松本ゼミ、ラベルデザインは川瀬ゼミが担当するなど、他学科横断で各専門分野を活かして取り組みました。



商品説明

- ・新座クラフトさんの『ヘレス』をベースに、麦芽量を増やすことで心地良い甘さと深いコクを表現
- ・苦味が抑えられているためビール初心者でも飲みやすくZ世代の若者が好むような味わいを実現
- ・1本 680円（税込）※フジショップで限定販売中



渡辺ゼミがビール製造を担当！

『ヘレス』をベースに心地良い甘さと深いコクを表現しながら、苦味を抑えたクラフトビールを仕込みました。初心者でも飲みやすく特に Z 世代の若者が好むような味わいを実現することが出来ました。

松本ゼミがネーミングを担当！

『BELLUME（ベルーメ）』は十文字学園の象徴である『桐華』にちなんでベルの形の「桐の花」とドイツ語で「花」を意味する『ブルーメ』を掛け合わせた造語です。とても良いネーミングができましたので、商標登録する予定です。

川瀬ゼミがラベルデザインを担当！

桐の花の「ベル」とクラフトビールで乾杯している楽しい感じをイメージしたデザインに仕上げました。

学内お披露目会の開催



食品開発学科 渡辺ゼミの発表

社会情報デザイン学科 松本ゼミの発表

社会情報デザイン学科 川瀬ゼミの発表

新聞などへの掲載

日刊工業新聞（10/17付）

日本経済新聞（10/18付）

J:COM（11/18-25）



桐華祭・地域のお祭り・展示会などに参加



おわりに

本活動成果は「日経新聞」、「日刊工業新聞」、J:COM などに取り上げられました。また桐華祭、地域のお祭り、展示会に出店するなど、「ベルーメ」を通して本学と学科のPR活動を行いました。これらの学生による社会活動は本学の名誉を著しく高めたことから、学内の「令和6年度 課外活動・社会活動等における表彰式」で表彰されました。各専門分野を活かして他学科横断で取り組みましたが、製造した約600本は大好評で、初めての他学科協同のクラフトビール企画は成功したと感じています。次回はZ世代の若者に人気の「フルーツビール」にチャレンジしたいと考えています。（食品開発学科 渡辺章夫）

生活環境研究所 2024 年度の主な活動

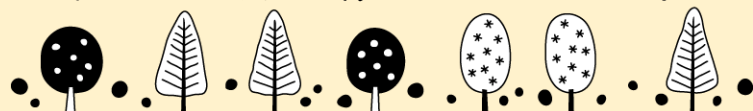
- ①森のプレーパーク(3 回) 場所:十文字の森 のべ参加者数 約 880 人
- ②宿題応援隊(夏休み学習支援)(新座市内 3 か所で各 1 回実施)
のべ参加者数 児童 65 名 地域ボランティア 55 名
- ③不登校支援活動(新座市学習支援センター「とことこぶらすのへや」) 28 回
登録児童生徒数 21 名 参加のべ人数 134 名
- 【行政視察・講演等】(新座市)新座市教育委員会初任者施設研修、不登校親の会、
民生・児童委員研修会(埼玉県)県議会文教委員会、富士見市教育委員会(宮城
県)石巻市議会(富山県)高岡市議会
(朝霞市)活動報告会「子どもの未来アクション学習会」学生 3 名による発表
- ④子育て応援フード・コスメパントリー
・栄 4 丁目たまりば(「まぜこぜたい」と連携)5 回 各 40 世帯
・十文字学園女子大学(ひとり親多子世帯パントリー)4 回 各 30 世帯
・志木市ペアモール商店会 パントリーイベント 100 世帯
- ⑤餅つき大会支援活動(2 回)ふるさと新座商店会、栄 4 丁目商店会
学生ボランティア 14 名 + キッチンカー、プラスちゃんくらぶ



とことこぶらすのへや番外編



毎週金曜日 14 時から 18 時に開室している不登校支援教室「とことこぶらすのへや」の子どもたちと学生が子ども縁日でポップコーン屋さんを開きました。ポップコーンづくり、味付け、接客など、自分たちで役割分担をして、1 つ 50 円で販売し、売り上げの一部を能登半島地震の被害者に寄付しました。子どもたちが大きく成長した一日となりました。





発行 十文字学園女子大学
社会連携推進課

TEL:048-477-0958(直通)



2025.7発行